

# 生活

✉seikatsu@asahi.com

## 患者を生きる

2951

### がん

### ネットでつながる⑤

精巣がんになり、手術や抗がん剤治療を乗り越えた東京都の大久保淳一さん(51)は今年2月、「5 years」(<https://5years.org/>)というサイトを立ち上げた。

がんの治療を終えて社会へ戻った経験者のプロフィールを紹介し、患者や家族はその経験者に相談ができる。「相談を通じて、患者と家族が抱える様々な問題の解決につながる」のが狙いだ。患者の悩みはがんの種類や置かれた状況によっても違う。「ぜひ多くの方に登録してほしい」と呼びかけたところ、がんの経験者、闘病中の患者や家族など、これまでに400人超がサイトに登録した。

## 「サロン」目指し改良続く

その一人で、乳がんの手術後に骨転移が見つかった東京都の女性(46)は、様々な登録者のコメントを読んだことで、気持ちが楽になった。女性は「先が見えない不安を抱えているのは自分だけではないと実感できた」と話す。がんになつて不安になるのは、自然な気持ちの変化なんだ……。そう思えるようになったという。

サイトの「みんなの広場」という質問コーナーに10月、骨転移に悩む別の患者からの相談が載った。女性は、自身の治療経過を説明したうえで、「職場復帰し、ジョギングなどもしています」と近況をつづり、メールを送った。

「5 years」は、がん患者

や家族が互いにつながり、情報を交換しあう場へと成長しつつある。がんを乗り越えた人の体験談は、いま治療を受けている人の心



サイトの運営について話し合う大久保さん(左)と山本さん(東京都千代田区)

の支えになる。それは、大久保さんが「闘病していた当時、自分がいちばん欲しかった情報」だ。

より使いやすいサイトにしようとして、大久保さんはIT技術者の山本晃さん(36)と日々、改良を重ねている。将来は、参加者ももっと自由に語り合える「サロン」のようなネット空間にしたいと思っている。5月からは、登録者を対象とした電話座談会も始めた。患者や家族とがん経験者の間を事務局が取り持ち、電話会議システムで話すことができる仕組みだ。

「がんになつても人生は終わりじゃない。まだ色々なチャンスが残っている。そのことを、患者さんやそのご家族に知ってもらいたいと願っています」

(山本晃之)

■ご意見・体験は、氏名と連絡先を明記のうえ、[iryu-k@asahi.com](mailto:iryu-k@asahi.com)へお寄せください。